教育・研究活動報告

生涯学習センターの活動†

最近の連携事業報告

菊地　信一*

（2018年５月21日受理）

Review of the Life long Learning Center

Shinichi Kikuchi

（Received May 21, 2018）

The Life Long Learning Center of Nippon institute Of Technology has been established since 1995. It's mainly activities are the NIT open college. We will introduce briefly the activity review of the center in this report. We will discuss new activities for the elderly generations and for the elementary school students.

1　はじめに

生涯学習センターは“本学の多様な研究成果”を広く一般に開放し、地域社会の生涯学習の充実や産業界の発展に寄与することを目的に、1990（平成２年）『公開講座センター』として発足した。その後1995（平成７）年に『生涯学習センター』に名称を変更、教養・趣味講座を開講、地域文化発展のため大きな貢献をしてきた。

これは本学が目指す地域貢献への具体的な現れとなっており、生涯学習の領域として現在も大きな役割を果たしている。

周知のとおり、「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」（以下、生涯学習振興法）は1990（平成２）年に制定された。以降、生涯学習振興行政が急速に展開されはじめてきた。同法第１条の目的には、都道府県の事業に関する推進体制の整備や特定地区における生涯学習機会の総合的提供を視野にいれながら、生涯学習審議会等の設置や生涯学習振興施策の推進体制および学習機会の整備を図ることで、生涯学習振興に寄与すると記されている。また、同法第２条には、個人の自発的意思を尊重しつつ、職業能力の開発および向上や社会福祉等に関する既成の学習機会と有機的に組み合わされることで、効果的な生涯学習の振興が図られるよう、行政間の連携への配慮も促されている。これらは本学の生涯学習センターを運営するにあたっての基本的な位置付けとなっている。

最近では2016（平成28）年５月の中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」において「誰もが社会に出た後も、時代の変化に応じて新たな知識・技術や技能を身に付けることができる『学び続ける』社会を実現」することの重要性が提案されている。生涯学習センターとしても、こうした潮流を見失うことなく、時代の要請に応じた施策を展開していかなければならない。

一方で、内閣府が2015（平成27）年に実施した「教育・生涯学習に関する世論調査」では、「生涯学習の実施状況」について、学習内容を以下のような領域に分けている。

（１）健康・スポーツ(健康法・医学・栄養・ジョギング・水泳など)
（２）趣味的なもの（音楽・美術・華道・舞踊・書道・レクリエーション活動など）
（３）職業において必要な知識・技術（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）
（４）教養的なもの（文学・歴史・科学・語学など）
（５）家庭生活に役立つ技能（料理・洋裁・和裁・編み物など）
（６）ボランティア活動のために必要な知識・技能
（７）社会問題に関するもの(社会・時事・国際環境など)
（８）育児・教育（家庭教育・幼児教育・教育問題など）
（９）就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など）
（10）自然体験や生活体験などの体験活動
（11）情報通信分野の知識・技能（プログラムの使い方・

* 所属 共通教育学群教授
生涯学習センター長・地域連携統括センター長

ホームページの作り方など）

（12）その他

この分類に従えば、生涯学習センターが現在実施しているプログラムは（４）教養的なものと（７）社会問題に関するもののみとなっており、今後は（１）健康・スポーツ（２)趣味的なもの(３)職業において必要な知識・技術(５）家庭生活に役立つ技能（９）就職や転職のために必要な知識・技能（11）情報通信分野の知識・技能などの講座新設が課題となってくる。生涯学習センターでは次年度の新規講座に向けた準備にとり組んでいることを報告しておきたい。

なお、この他に子ども向けの連携事業は既に実施済みであり、詳細は後述する。

２　日本工業大学（NIT）オープンカレッジ

市民のための公開講座名で、生涯学習センター設立当初から広く市民に開放している。以前は陶芸・水彩画・油絵などの作品制作講座を実施していたが、諸般の事情により現在は開講していない。2018（平成30）年度は英会話・中国語会話からなる語学講座のみを開設している。各講座とも通年の開講であり、10回の授業を１期として年間３期を設定している。指導は大学非常勤師・学外からの招聘の講師に委嘱している。授業時間は90分となっている。開講講座および担当講師一覧を表１に示す。

表１　開講講座、担当講師、在籍数

教室名	講座名	講師名	在籍数
英会話教室	英会話初級	Cathal Patrick Kerr	10
	英会話初中級Ⅰ	Cathal Patrick Kerr	11
	英会話初中級Ⅱ	Cathal Patrick Kerr	6
	英会話中級	Cathal Patrick Kerr	9
	英会話上級	Cathal Patrick Kerr	14
中国語教室	中国語初中級	張文郁	6
	中国語中級	張文郁	6
	中国語上級	張文郁	7

※2018（平成30）年各教室１期生の在籍数。２期生・３期生の募集はこれから。

表２は2011（平成23）年からオープンカレッジ公開講座の受講者数の推移である。2011（平成23）年の累計379名がピークであり、以降、漸減傾向にある。受講生募集は大学ホームページ、市町発行の公報を利用しての広報活動であるが、いまだ十分とはいえないし、まさに抜本的な戦略の練り直しが必要な状況である。

表２　NITオープンカレッジ公開講座受講者数（いずれものべ人数）

2011年度受講者数				
講　座　名	１期	２期	３期	累計
英会話初級1	15	14	14	43
英会話初級2	12	12	14	38
英会話初中級	15	15	15	45
英会話中級	13	15	15	43
英会話上級	13	13	12	38
英会話基礎	16	13	11	40
中国語会話入門	11	11	10	32
中国語会話初級1	10	10	10	30
中国語会話初級2	10	10	10	30
中国語会話中級	13	13	14	40
計	128	126	125	379
2012年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級1	14	15	15	44
英会話初級2	13	11	10	34
英会話初中級	15	14	12	41
英会話中級	13	14	14	41
英会話上級	14	15	15	44
英会話基礎	15	15	13	43
中国語会話入門	11	11	11	33
中国語会話初中級	13	13	13	39
中国語会話中上級	12	13	11	36
計	120	121	114	355
2013年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級	15	14	13	42
英会話初中級1	11	12	12	35
英会話初中級2	13	14	15	42
英会話中級	13	13	12	38
英会話上級	15	14	14	43
英会話初級	13	13	13	39
中国語会話初級	11	11	10	32
中国語会話初中級	12	12	11	35
中国語会話中上級	12	11	11	34
計	115	114	111	340
2014年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級	12	11	12	35
英会話初中級1	9	8	8	25
英会話初中級2	13	10	9	32
英会話中級	11	11	10	32
英会話上級	13	11	13	37
英会話初級	12	11	11	34
中国語会話初級	10	10	11	31
中国語会話初中級	10	8	9	27
中国語会話中上級	11	10	10	31
計	101	90	93	284
2015年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級	14	14	14	42
英会話初中級1	9	9	9	27
英会話初中級2	11	10	10	31
英会話中級	11	11	11	33
英会話上級	12	13	13	38
中国語会話初中級	8	8	8	24
中国語会話中級	8	8	7	23
中国語会話上級	11	11	10	32
計	84	84	82	250
2016年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級	13	13	13	39
英会話初中級1	11	12	13	36
英会話初中級2	10	10	8	28
英会話中級	11	11	9	31
英会話上級	10	12	12	34
中国語会話初中級	8	8	7	23
中国語会話中級	8	7	7	22
中国語会話上級	10	10	10	30
計	81	83	79	243
2017年度受講者数				
講座名	１期	２期	３期	累計
英会話初級	13	12	11	36
英会話初中級1	12	11	11	34
英会話初中級2	7	6	6	19
英会話中級	9	10	9	28
英会話上級	12	12	12	36
中国語会話初中級	7	6	6	19
中国語会話中級	7	7	7	21
中国語会話上級	9	9	9	27
計	76	73	71	220

表３は2017（平成29）年の受講生年齢についてである。英会話の受講生は女性の比率が77％強となっているのに対し、中国語会話の受講生は男女比が拮抗している。

平均年齢は英会話、中国を会話それぞれ66.74歳、67.73歳となっており、大部分の受講生は50代以降の世代が中心である。英会話の最高齢は80歳、中国語会話のそれは82歳であり、今後さらに高齢化が進むと予想される。対して、最年少は英会話に37歳の受講生が在籍しているの

に注目したい。今後は、年齢別（年代別）のクラス編成なども一考に値する考える。

表３　受講生年齢2017（平成29）年１期在籍者

受講生年齢

項目	英会話		中国語会話		計
受講者数	53		23		76
女性	41	77.36%	13	56.52%	54
男性	12	22.64%	10	43.48%	22
平均年齢	66.74		70.65		－
最年少	37		60		－
最高齢	80		80		－

表４・表５は受講生の居住地分布である。とりわけ大学所在地の宮代町が過半数を占める傾向にある。大学から５km圏内の宮代町、杉戸町、春日部市の居住者は全体の65.7%、50名である。さらに大学から10km圏内（受講生の多い順に、宮代町、杉戸町、久喜市、春日部市、白岡市、幸手市、蓮田市５市２町に全受講生の90.8%、69名が居住している。受講生の平均年齢分布を考えるとほぼ妥当な範囲である。これからのアピールポイントは「自宅の近くで文化と教養を享受できる市民教育施設」となるだろう。

表４　受講生居住地分布2017（平成29）年１期在籍者

受講生住居地分布

	英会話	中国語会話	計
宮代町	26	9	35
杉戸町	9	2	11
春日部市	3	1	4
白岡市	2	2	4
蓮田市	3	0	3
久喜市	5	3	8
幸手市	3	1	4
加須市	0	2	2
越谷市	1	1	2
野田市	1	0	1
さいたま市	0	1	1
東京都	0	1	1
計	53	23	76

表５　受講生居住地分布2017（平成29）年１期在籍者

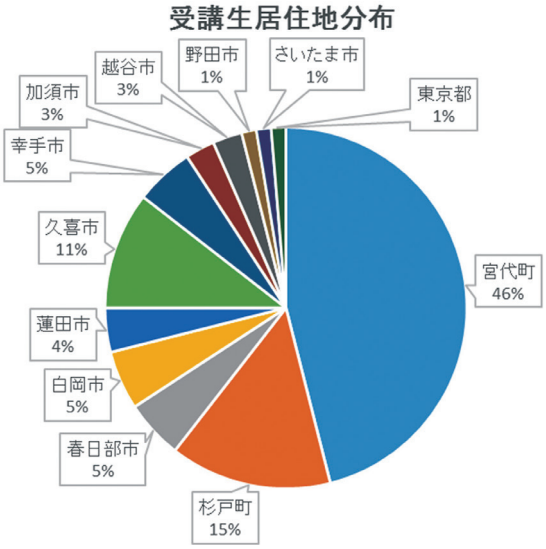

写真１　英会話教室風景

写真２　中国語会話教室風景

３　「子ども大学」

３.１　子ども大学みやしろ

この活動は埼玉県教育局町村支援部の提唱で2007（平成21）年川越市に「子ども大学かわごえ」が誕生。2017（平成29）年には県内全市町に子ども大学が発足しそれぞれ事業を展開中である。

内容としては３つのテーマ「はてな学」、「ふるさと学」、「生き方学」を大学を舞台に学習教室を開催するものだ。

本学は、埼玉県、宮代町教育委員会とともに「子ども大学みやしろ実行委員会」を組織し、2011（平成23）年より開講している。対象は、宮代町在住の小学生（４年生から６年生）50名（定員）とその保護者である。表６は参加者数の推移である。昨年までの７年間において、定員を充足する年が多くなっていること着目したい。

表６　子ども大学みやしろ参加者数

子ども大学みやしろ
（小4, 5, 6）

	参加者数
2011	49
2012	36
2013	65
2014	52
2015	52
2016	51
2017	57

また、表７は「子ども大学みやしろ」の過去３年間のプログラムである。全４日の講義のうち、本学が担当するのは３日間。子どもたちの好奇心を満たし、子どもの持つ可能性を支援する内容となっている。

表７　「子ども大学みやしろ」プログラム
（平成27年度～平成29年度）

平成２７年度　　参加小学生５２名
（１）９月１２日（土）　「化け猫は怖いけど化け学は怖くない」
伴雅人　教授
池添泰弘　教授
日本工業大学　先端材料技術研究センター
（２）１０月３日（土）　「家庭でつくれるエコグッズ」
学生環境推進委員会
日本工業大学　物理実験棟
（３）１０月１７日（土）「見て楽しい！食べておいしい！和菓子づくり体験」
武笠　氏（和菓子職人）
新しい村　村の集会所
（４）１０月２４日（土）　「光のふしぎな世界」
佐藤杉弥　教授
服部邦彦　教授
日本工業大学　物理実験棟

平成２８年度　　参加小学生５１名
（１）９月３日（土）　「からくり人形はなぜ歩く」
機械工学科　増本憲泰　講師
日本工業大学　機械実工学教育センター２階・講義室
（２）９月１０日（土）　「おもしろデザイン講座」
機械工学科　大島康彰　教授
日本工業大学　機械実工学教育センター２階・講義室
（３）１０月１日（土）　「南極クラス」
井熊英治　氏（元南極観測隊員）
コミュニティーセンター　進修館
（４）１０月１５日（土）　「バックン貯金箱」
学生環境推進委員会
日本工業大学　物理実験研究棟
（５）１０月３０日（日）　３Ｄ－CADﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺﾝﾃｽﾄ（自由参加）
機械工学科
日本工業大学　学友会館会議室

平成２９年度　　参加小学生５７名
（１）９月１６日（土）　「ふしぎな発電！」
電気電子工学科　吉野秀明　教授
木村貴幸　准教授
日本工業大学　９号館３階・実験室
（２）９月２３日（土）　「わりばし鉄砲を作ろう！」
学生環境推進委員会
日本工業大学　物理実験研究棟
（３）１０月２１日（土）　「わくわく動物大学！」
東武動物公園飼育係
東武動物公園
（４）１１月１２日（日）　「プログラミングってどうやるの？」
情報工学科　山地秀美　教授
日本工業大学　情報工学科棟１階・演習室

写真３　子ども大学みやしろ風景

３.２　子ども大学すぎと

2016（平成28）年度より、杉戸町教育委員会とともに「子ども大学すぎと実行委員会」を組織し実施の運びとなった。前年に杉戸町と本学は包括的連携協定を締結し、多くの共同事業を展開する計画が立てられた。子ども大学すぎとはその一環の事業でもある。

表８は過去２年間のプログラムであるが、2016（平成28）年、2017（平成29）年に関しては「子ども大学みやしろ」と同一の内容になっている。これは同日の午前、午後に、「子ども大学すぎと」「子ども大学みやしろ」を組み入れたためである。

表８　「子ども大学すぎと」プログラム
（平成27年度～平成29年度）

平成２８年度　　参加小学生３７名
（１）９月３日（土）　「からくり人形はなぜ歩く」
機械工学科　増本憲泰　講師
日本工業大学　機械実工学教育センター２階・講義室
（２）９月１０日（土）　「おもしろデザイン講座」
機械工学科　大島康彰　教授
日本工業大学　機械実工学教育センター２階・講義室
（３）９月２４日（土）　「印刷のいろいろ」
久保田勝仁　先生
高野幹裕　先生
山口祐貴泰　先生
桶屋雄太　先生
凸版印刷㈱　総合研究所
（４）１０月１５日（土）　「バックン貯金箱」
学生環境推進委員会
日本工業大学　物理実験研究棟

平成２９年度　　参加小学生５２名
（１）９月１６日（土）　「ふしぎな発電！」
電気電子工学科　吉野秀明　教授
木村貴幸　准教授
日本工業大学　９号館３階・実験室
（２）９月２３日（土）　「わりばし鉄砲を作ろう！」
学生環境推進委員会
日本工業大学　物理実験研究棟
（３）１０月２２日（日）　「原始美術を楽しむ」
杉戸町教育委員会 社会教育課 町史文化財担当学芸員
エコ・スポいずみ
（４）１１月１２日（日）　「プログラミングってどうやるの？」
情報工学科　山地秀美　教授
日本工業大学　情報工学科棟１階・演習室

※「子ども大学すぎと」は平成28年度より開講

写真４　子ども大学すぎと風景

４　親子でサイエンススクールin 日本工業大学

栃木市教育委員会主催事業との連携授業の子ども版である。この事業は2009（平成21）年に開始、これまでに尽力された機械工学科元教授有賀幸則先生の助言により実施の運びとなった。2015（平成24）年からは赤間松三先生にも御尽力いただき、現在につながっている。栃木市在住の小学生と保護者20組を招き、一日教室を開催するものだ。表９は実施内容状況である。

表９　親子でサイエンススクール実施内容

実施日	内容
平成21年度 11月21日 （土）	**ものづくり体験** ものづくり環境学科准教授 丹澤祥晃 先生より、クリーンエネルギーと環境問題について、機械工学科講師 増本憲泰 先生より、二足歩行ロボットについての説明をいただき、先生と学生の支援によって、ミニ風力発電装置と二足歩行ロボットを作り上げた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『風力発電装置・太陽光発電装置・超高電圧研究センター見学』
	参加人数 【児童】小3～小6　男子11名　女子7名　合計18名
平成22年度 11月20日 （土）	**ものづくり体験** 先端材料技術研究センター准教授 野口裕之 先生に綿菓子製造機、創造システム工学科教授 中里裕一 先生と、株式会社アイ・エス・テイ 開発室室長 園部元裕 先生より、光源追跡ロボットづくりを御指導いただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『風力発電装置・太陽光発電装置・超高電圧研究センター見学』
	参加人数 【児童】小4～小6　男子18名 女子5名 計23名 【保護者】父親9名 母親8名 祖母1名 計18名　総計41名
平成23年度 11月19日 （土）	**ものづくり体験** 創造システム工学科准教授 櫛橋康博 先生に『紙工作で受動歩行するウサギをつくろう』というテーマで紙ロボットづくりをご指導いただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 当日は雨天ということで、車庫にて運転席に乗車させていただき、さらに、電気で走るミニ列車を運行していただいた。さらに、『ダ・ヴィンチとメカニズム』という特別展を行っていたので、赤間実行委員長が講師となり、解説を行った。 『超高電圧研究センター見学』 超高電圧研究センター長 西村誠介 先生より雷のメカニズムについて説明があり、その性質上、落雷を避けるための注意点等を学んだ。また、超高電圧研究センター助教 清水博幸 先生に放電操作と西村先生の解説で落雷実験を行った。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子14名 女子5名 計19名 （幼児2名） 【保護者】父親6名 母親9名 祖母2名 計17名　総計38名

実施日	内容
平成24 年度 11月17日 （土）	**ものづくり体験** 機械工学科准教授 細田彰一 先生に『はばたきモビール』の製作ということで、デザインについての講義と、ものづくりのご指導いただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『超高電圧研究センター見学』 超高電圧研究センター長 西村誠介 先生より雷のメカニズムについて説明があり、その性質上、落雷を避けるための注意点等を学んだ。また、超高電圧研究センター助教 清水博幸 先生に放電操作と西村先生の解説で落雷実験を行った。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子9名 女子3名　計12名 幼児1名 【保護者】父親5名 母親7名　計12名 総計25名
平成25年度 11月16日 （土）	**ものづくり体験** 共通教育系物理准教授 服部邦彦 先生に『ホバークラフト』の製作ということで、作り方のコツと、実際のものづくりのご指導いただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『超高電圧研究センター見学』 超高電圧研究センター助教 清水博幸 先生より雷のメカニズムについて説明があり、その後、様々な落雷実験を行った。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子14名 女子2名　計16名 幼児1名 【保護者】父親7名 母親4名 祖父1名 計12名　総計29名
平成26年度 11月15日 （土）	**ものづくり体験** 『受動歩行するウサギロボット』の製作ということで、創造システム工学科准教授 櫛橋康博先生に、作り方のコツと、実際のものづくりのご指導をいただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『超高電圧研究センター見学』 超高電圧研究センター長 西村誠介 先生より雷のメカニズムについて説明があり、その性質上、落雷を避けるための注意点等を学んだ。また、超高電圧研究センター助教 清水博幸 先生に放電操作と西村先生の解説で落雷実験を行った。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子15名 女子10名 計25名 （3年生1名・2年生1名含む） 【保護者】父親10名 母親11名 祖父1名 計122名　総計47名

実施日	内容
平成27年度 11月28日 （土）	**ものづくり体験** 『おもしろ万華鏡 』の製作ということで、機械工学科先端材料技術研究センター准教授 野口裕之先生 に、作り方のコツと、実際のものづくりのご指導をいただいた。また、3Dプリンタや綿飴を作る機械で実演していただいた。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『超高電圧研究センター見学』 超高電圧研究センター長 西村誠介 先生より雷のメカニズムについて説明があり、その性質上、落雷を避けるための注意点等を学んだ。また、超高電圧研究センター助教 清水博幸 先生に放電操作と西村先生の解説で落雷実験を行った。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子5名 女子13名　計20名 【保護者】父親5名 母親13名　祖父1名　祖母1名　計20名 総計40名
平成28年度 11月19日 （土）	**中止**
平成27年度 11月28日 （土）	**ものづくり体験** 「かんたん♪電子オルゴール」の製作ということで、電気電子工学科教授　上野貴博　先生から作り方の説明と、実際のものづくりのご指導をいただいた。また、スチューデントラボの坂木悦男先生にご指導いただき、電子オルゴールの木製ケース製作の作業に取り組んだ。 『工業技術博物館および蒸気機関車走行イベント』 『次世代ロボット見学』 創造システム工学科中里裕一先生には、普段の研究室の利用状況をお話しいただき、研究室にある大型ヒューマノイドロボット「ニコット」を見学させていただいた。創造システム工学科秋元俊成先生には、学科や研究室の説明、ロボット工学の必要性及び研究室で取り組んでいる医療福祉ロボットについてお話をいただいた。
	参加人数 【児童】小4～小6　男子10名 女子11名　計21名 【保護者】父親9名 母親11名　計20名 総計41名
平成30年度 10月27日 （土）	**今年度、親子20組で募集予定**

写真５　親子でサイエンススクール風景

５　大学の開放授業講座（シニアチャレンジ講座）

本学は2008（平成20）年度より参画、現在、本学を含む埼玉県内20大学・短大と埼玉県が行う協定事業である。事業の主旨は、充実した人生構築のために、県内の市民（55歳以上）を対象とする大学授業の有料の開放講座である。本学では別名「シニアチャレンジ講座」で実施している。

表10は、これまで実施された講義である。年度によって差はあるが、春学期・秋学期合わせて20名以上の受講者がいる。

表10　シニアチャレンジ講座受講者数

2011春学期講座	受講者数	2012春学期講座	受講者数
情報化社会と倫理	3	情報化社会と倫理	1
日本建築史	7	日本建築史	4
近代建築史	8	近代建築史	3
メディア情報学	3	メディア情報学	2
ナノの世界をのぞく	3	ナノの世界をのぞく	8
人間工学	1	人間工学	8
集住計画	5	建築計画Ⅱ（集住計画）	1
環境とエネルギー	8	環境と住まい	1
計	38	介護福祉概論	7
2011秋学期講座	受講者数	計	35
新エネルギー技術と環境	7	2012秋学期講座	受講者数
世界遺産のアジアの建築	8	ナノバイオニクス	5
ものづくりと福祉	7	環境と化学	4
住宅史	9	住宅史	1
計	31	ライフスタイルと住空間	6
合計	69	新エネルギー技術と環境	6
		グリーンマシニング	4
		計	26
		合計	61

2013春学期講座	受講者数	2014春学期講座	受講者数
情報化社会と倫理	1	情報化社会と倫理	2
日本建築史	2	日本建築史	3
近代建築史	4	近代建築史	3
メディア情報学	0	メディア情報学	0
ナノの世界をのぞく	6	ナノの世界をのぞく	0
人間工学	3	人間工学	2
建築計画Ⅱ（集住計画）	1	建築計画Ⅱ（集住計画）	1
環境と住まい	3	環境と住まい	0
介護福祉概論	4	インターネットシステム	3
インターネットシステム	5	計	14
コンピュータハードウェア	1	2014秋学期講座	受講者数
計	30	情報デザイン	0
2013秋学期講座	受講者数	情報英語Ⅱ	2
住宅史	0	住宅史	5
ライフスタイルと住空間	0	ライフスタイルと住空間	2
新エネルギー技術と環境	7	新エネルギー技術と環境	0
ロボティクス概論	5	計算可能性と複雑さ	1
計	12	設計・開発基礎演習Ⅱ	0
合計	42	計	10
		合計	24

2015春学期講座	受講者数	2016春学期講座	受講者数
情報化社会と倫理	3	人間工学	3
日本建築史	6	環境とエネルギー	3
近代建築史	3	技術創造論	5
メディア情報学	3	インターネットシステム	2
ナノの世界をのぞく	0	情報化社会と倫理	1
人間工学	0	メディア情報学	0
環境とエネルギー	5	情報英語Ⅰ	1
インターネットシステム	4	日本建築史	7
		近代建築史	2
計	24	計	24
2015秋学期講座	受講者数	2016秋学期講座	受講者数
情報デザイン	1	機械加工-J	3
情報英語Ⅱ	3	ナノテクノロジー概論	0
住宅史	6	新エネルギー技術と環境	3
環境と工学	0	情報デザイン	1
ロボティクス概論	4	情報英語Ⅱ	1
新エネルギー技術と環境	4	計算の複雑さ	0
計算可能性と複雑さ	0	住宅史	3
機械加工	1	西洋建築史	6
まちづくりと地域計画	2	計	17
計	21	合計	41
合計	45		

2017春学期講座	受講者数
人間工学-J	4
環境とエネルギー	4
技術創造論	4
インターネットシステム	2
情報化社会と倫理	0
メディア情報学	1
情報英語Ⅰ	4
近代建築史	2
計	21
2017秋学期講座	受講者数
機械加工-J	0
機械技術史-J	1
ナノテクノロジー概論	4
新エネルギー技術と環境	0
情報デザイン	1
情報英語Ⅱ	1
計算の複雑さ	0
ライフスタイルと住空間	3
計	10
合計	31

表10は、これまでに実施された講座である。年度によって差はあるが、春学期・秋学期合わせて20名以上の受講生がいる。

この講座の受講動機は「知識・教養を深めたい」、「余暇を充実させたい」と考えられる。本学の講座が工学部専門科目であることを加味すれば今後は受講生の学習意欲を満たす内容の講座を提供していく必要があるだろう。

なお、この事業の広報は統一要項を埼玉県が作成・配布し、県の広報・ホームページを活用して全県に伝える仕組みになっている。さらに本学では、近隣市町の広報誌と大学ホームページの掲載を行い、受講者を募っている。

以下に2018(平成30)年の参加大学を記す。本学の他に、埼玉大学、浦和大学、日本薬科大学、聖学院大学、尚美学園大学、東邦音楽大学、東京国際大学、西武文理大学、城西大学、十文字学園女子大学、文京学院大学、淑徳大学、武蔵丘短期大学、東京電機大学、埼玉工業大学、ものつくり大学、文教大学、日本社会事業大学、さらに後期から参加の国際学院埼玉短期大学、女子栄養大学。

表11　2018（平成30）年度「シニアチャレンジ講座」春学期科目概要及び担当者

科目名(担当)	授業科目の概要	受講者数
人間工学-J （細田　彰一　教授）	我々が作る道具にとって必要不可欠かつ仕様変更のできない「部品」である。その意味でデザイン行為は、人間を中心としたシステム設計として考える必要がある。本科目は、人間工学の基礎である、人間の各種機能性能を中心に学ぶものである。 達成目標 人間の機能を工学的な視点から把握し、人間中心のシステムを構築するのに必要な知識を身につける。	1
環境とエネルギー （八木田　浩史　教授）	エネルギー利用に伴う環境問題の要因と、エネルギー技術の現状を学び、それらの問題解決の考え方と、解決に必要な技術の基礎知識を習得する。エネルギーを取り巻く環境問題として、地球温暖化、資源枯渇、食料の問題、リサイクルなどを取り上げ、広く捉えた地球環境問題について学ぶ。	2
インターネットシステム （小池　新　講師）	インターネットは、我々の生活を支える情報通信の基盤として、多くの人が生活の中で利用している。コンピューターネットワークの代表であるこのインターネットの仕組みについて学ぶ。インターネットの核であるTPC/IPプロトコル群を中心に、電気電子・情報通信の技術者として身につけておくべきインターネットに関する設計思想と構成技術そしてその課題についての基礎知識を習得することを目標とする。	2
メディア情報学 （石原　次郎　教授）	21世紀に入ってから現れた次世代メディアの状況をより明確に理解するために、情報メディアの発生からその発展変容までの軌跡をたどる。さらには電子メディアのあり方とその発展の道筋を追い、各人がメディアの未来像がどのようなものになるかを議論できる知識を身につけることを目標とする。 また、情報メディアをコミュニケーション・プロセスとしてとらえ、人と世界の関係、人間の認識や感覚、伝達や記憶の仕組みまでを含んだ包括的な新しい情報メディアの全体図を提示することで、単なるメディア技術史やメディア表現史に終わらない講義を行う。	2
日本建築史 （安野　彰　教授）	日本建築の歴史を、政治体制や海外交流などの社会的背景、意匠と設計技術、工具と施工技術などを踏まえて体系的に理解することを通して、継承すべきものやあるべき空間や環境、日本文化の特質や今後の建築に何が求められているかについて本質的な視点で考察できるようになることを目指す。 先人の真摯な営みや優れた技術に触れることで、豊かな社会を創造するための糧になれば幸いである。	6
近代建築史 （黒津　高行　教授）	建築とは何か。これは建築に携わる者にとって最も根本的な課題であり、各分野から、より良い建築を追及する。良い建築を求めるためにはまず、建築とは何かを知らなければならない。何が良い建築か、この判断も実に難しいことである。ここでは現在の建築の母胎となっている近代建築、その歩みを正しく把握し、それを通して各自で建築とは何かを考えていきたい。本年度は19世紀末から20世紀初めにかけて生じたヨーロッパと日本の近代建築の流れについて理解することを目指す。	1
	合計	14

6　おわりに

現在の生涯学習センターの活動報告については前述のとおりである。

少子高齢化社会を迎えた今、これまでの活動に加え、多方面からの視点で、多くの受講者が期待・満足できる講座を実現していかなければならない。本学では、2017（平成29年）より、地域連携統括センターを発足させた。今後は生涯学習の対象者は、まさに地域の中に存在しているという思考のもとで、生涯学習センターの運営を図っていく必要がある。

受講者（予備群）のニーズを的確にとらえ、活動を継続していくことを、新たな目標としていきたい。